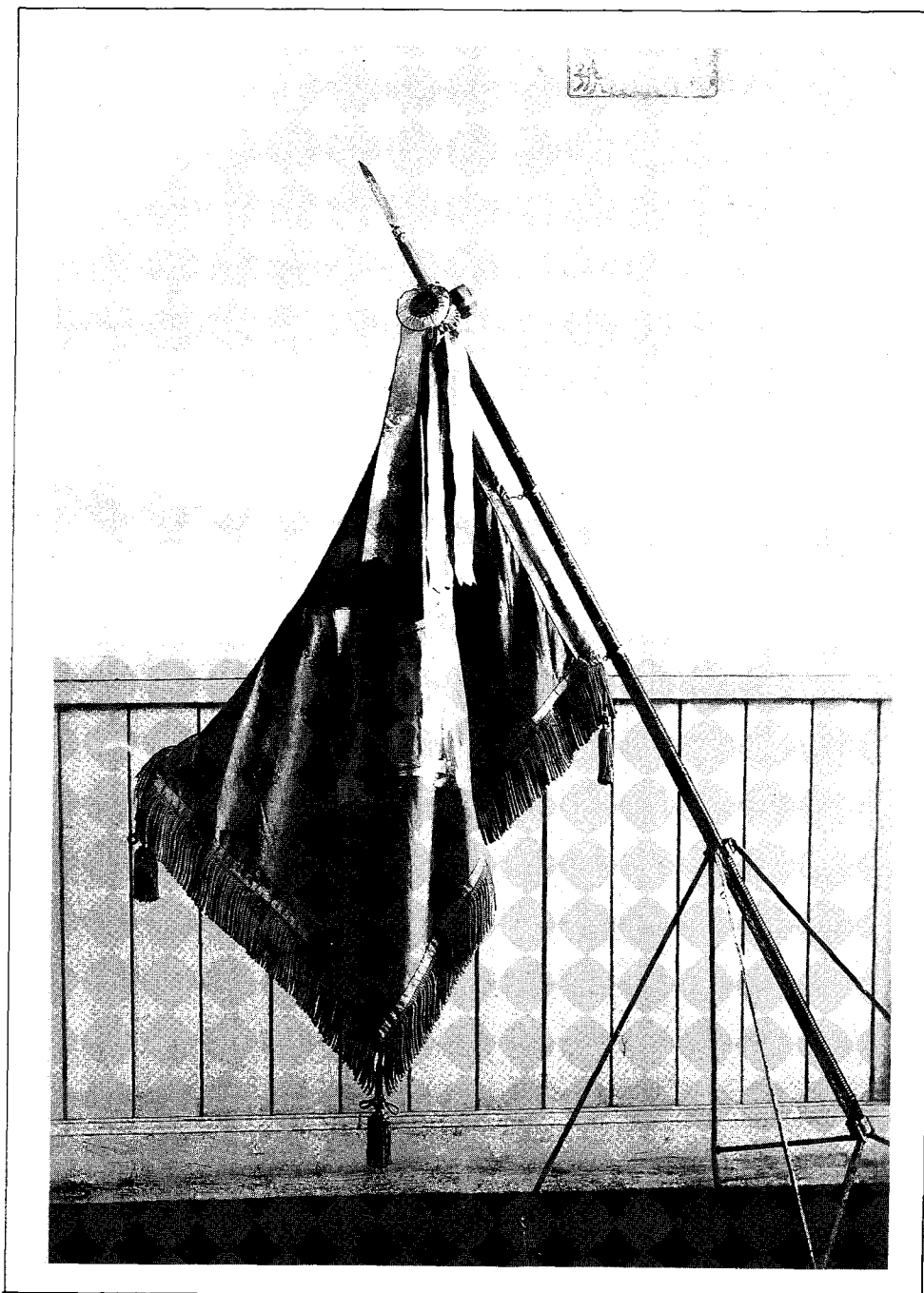
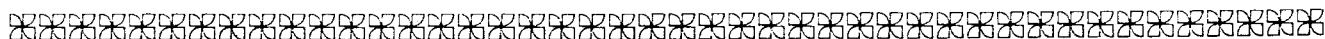


臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

第35回平成4年度支部大会号 6.6





第35回 東京支部大会プログラム

平成4年6月6日(土)午後3時

於 池之端文化センター

第 一 部

場 内 司 令 …… 案 内 ◎渡辺八郎(高3) ○八木又一郎(高7) 青木 猛(高2) 大江佳一(高4)
石黒四郎(高9) 山西愈佐子(高8) 片柳ムツ(高8) 木村孝子(高8)
受 付 ◎斉藤和夫(中33) ○芳賀健一(中33) 中村雅明(中33) 岡本和子(女25)
佐藤玲子(女25) 廣田達衛(高5) 笠原静夫(高18) 寺山征子(高10)
真水道子(高10) 小島典子(高10)
設 営 ◎鈴木多喜男(高4) ○佐久間英輔(高6) 築取錦二(高7) 今井正(高2)
田代信雄(高11)

開 会 宣 言 …… 伊藤 勇五(中33)
司会進行 ◎沢出赳允(高6) ○岡本和子(女25) 鶴巻 浩(高10)
経過及び会計報告 …… 事務局長 …… 中村 倉吉(中22)
会計監査報告 …… 芳賀 健一(中33)
支 部 長 挨 拶 …… 佐伯 益一(中27)
来 賓 挨 拶 …… 同 窓 会 長 …… 茂野 敏郎(中17)
学 校 長 …… 徳橋 時男

第 二 部

懇親会開会挨拶 …… 斉藤 和男(中33)
乾 杯 …… (出席高齢者の中より)
歓 談 ・ 会 食 …… 文部省唱歌「ふるさと」 全員 合唱 …… 関 孝世(高3)
アトラクション …… 演 歌 歌 手 杉 幸子 …… 小澤 幸子(高21)
ジャンケンゲーム …… 『佐伯賞』 鈴木多喜男(高4) 深見洋子(高7) 大橋 貞夫(高10)
抽 選 会 …… 篠川恒夫(高2) 寺山征子(高10) 真水道子(高10) 小島 典子(高10)
校 歌 ・ 応 援 歌 …… 全 員
手 締 め …… 支 部 長
万 歳 三 唱 …… 学 校 長
閉 会 挨 拶 …… 塚田 勝(高8)

写真撮影・インタビュー …… 広 報 部

受付、案内、大会運営には支部役員全員があたる(氏名省略)

☆-----☆

(表紙写真について)

80年の伝統を誇る旧制村松中学校々旗

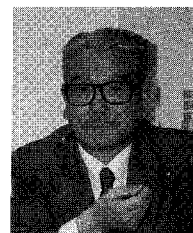
大正6年3月11日に樹立式を挙げたが今はもう古びてアチコチ綻びが出て補修しなければ
使用に耐えないとのことである。

吾々松高精神の拠りどころとして今でも心の中で生きている。



あいさつに代えて

— 雑感 —



東京支部長 佐 伯 益 一

懸案であった母校80周年記念行事も盛大裡に終り、又立派な雨天練習場も建設され、先づはおめでとうと申しあげたい。記念誌も手許に届き、折を見ては読ませていただいている。母校創立80周年にむけて之等の話が出たのが確か法性校長の頃からだと思うが、渡辺校長の代より話が活潑化し佐藤校長の代になって完遂したのは周知の通りである。こう書くと如何にも準備の期間が長かったように思われるがナニ各校長先生の在任期間が極めて短かったからそう思うだけの話である。諸計画が具体化して、募金、練習場建設、記念誌の発行と、ごく短期間の内に進められ、成果を挙げる事が出来たのは学校当局を始め、同窓会、PTA、各事業団体の並々ならぬ御尽力のお陰と感謝している。良かったなァ、の一言に尽きる。

同窓会に関しては、今まで凡ゆる機会を捉えて意見を述べているので今更改めて申しあげることも無いが、同窓会の立場から記念誌について少々意見を述べさせて頂きたい。端的に云えばもう少し同窓会について頁数が欲しかったことである。各支部長さんの論文ばかりでなく各支部の所在地、会員数などを載せて頂ければ支部の存在をまだ知らない方、今後学窓を巣立つ後輩諸氏に何かと便宜を与える事が出来るのではないかと考えるからである。80周年記念事業実行委員会の顔ぶれを見ても定員の70%は同窓会員、特に村松支部を中心とした方々で構成され、記念事業推進に大きな役割を果されている。故にこそ同窓会に関する記事を大きく取扱って頂きたかったのである。先輩、後輩の各氏から、たくさんの原稿が寄せられているが、同窓会にふれている記事を見たのは只今の処高校第10回卒の鶴巻浩氏のみであり、もう少し同窓会に関しての思い出、寄稿があったら良かったのにと残念に思う、が、両松尾さん、伊藤さんを始めとする編集委員の皆様の御労苦に対しては只々頭の下がる思いである。率直に考えた処を書かせて頂いた、悪く思わないで欲しい。

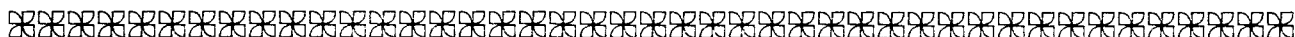
話はかわるが、嘗って私は全国か全県下の高校同窓会

が武道館か何処ぞを借りきってエールの交歓を交わしたらさぞ愉快な事であろうと会報に書いた事がある。そして多くの方から激賞を浴びた。先般ふとした機会から津川高の同窓会支部長さんと話し合う事が出来た。大賛成であった。これは何とかかなりそうだと知り合いの新発田高出身者に話をしてみたら、東京にはまだ同窓会は出来ていないとの事で、私の話に刺激されたか早速東京支部を作る事になった。そして昨年発足した。本年松高東京支部大会と同日の6月6日に乃木坂の健保会館で本年度の総会が開かれる筈である。

同窓会大会のやり方について教えをと役員会に出席を請われたのはナント嬉しい話ではないか、快諾したのは勿論である。企画部会長の佐々間英輔氏の奥さんが新津高の役員をしておられ、支部長さんの住所を訊く事が出来た。中村事務局長の戦友である南学氏が新潟高の会長であるのには驚いた。案外、道は近くにあるものだと感心したり感謝したりしている。そこで私はよく訊かれる“一体集って何をするのか”と、“いや、只集まるのが目的だよ、集まればそこから何かしら生れるものだ”と私は応える。我々の同窓会がやらずとも将来必ずその動きが出てくる筈だ。然らば松高が先ず第一声を挙げ高校同窓会大決集の先鞭をつけるべきだと思っている。その挨拶文は別掲の通りである。願わくば会員各位の御同意の上是非御協力を得たいものである。後輩諸兄姉に伝承する大バトンでもあるからである。私が支部長を何時までもやっておられるわけがない。一人位私のような夢を見るバカが居てもよいではないかと常々思っている。

さて最後になったが会報“臥竜が丘は緑なり”第13号をお届けする。12号で齊藤朝之氏の寄稿“大空に散った同窓たち”が誠に好評であった。その第二弾とも云うべきか、現存の各氏から貴重なお写真をお借りして掲載した。昔を思い出してみるのも又感興が湧くであろう。

御協力願った各位に厚く御礼申しあげる次第である。



ご 挨拶

新潟県立村松高等学校長 徳 橋 時 男



このたび、平成4年度の人事異動により、新潟高等学校から着任いたしました。なにとぞよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

早速私事で恐縮ですが、私は、昭和40年4月から4年間、村松高校にお世話になっておりました。もともとこの村松町は、父祖の地であり、姉は村松高校を卒業させていただいております。そういう関係から、当時も一人の感慨をもって勤務させていただいておりましたが、このたびの着任に当たり一層深い縁を感じ、身のひきしまる思いをいたしております。

さて、私は、始業式で次の三点について生徒諸君に話をいたしました。

- 一 伝統校に学ぶ誇りをもって、日々の学習に、部活動に青春の情熱を傾けてほしい。
- 二 熱心に学習して、忍耐力、持久力、応用力を身につけてほしい。
- 三 将来の進路について希望を高く掲げ、それに向かって邁進してほしい。

これは、往時の松高がそのかげをひそめていることから生徒諸君が影響を受けることなく、胸を張って高校時代を過ごしてほしいとの願いを込め、鼓舞、激励したつもりでした。

幸い、同窓諸兄のご尽力を賜り、当校には若干なりとも変化のきざしがみられます。教職員は、同窓会、地域の方々の熱い思いを何とか実りのあるものにすべく努力いたしております。進路指導関係では、前々渡邊校長、前佐藤校長のご努力と先生方の協力とがあいまって、今年度も進学指導推進事業実施校の指定を県教育委員会か

ら受けました。また、公務員模試、就職模試も既に開始いたしました。部活動関係では、5月初・中旬の地区大会及び5月下旬から6月初旬にかけての県高校総合体育大会をめざして、各部とも練習に余念がありません。先生方の指導とそれについていく生徒諸君の放課後遅くまでの練習には頭が下がります。よい結果が出るならこれに越したことはありませんが、ひたむきに努力する姿勢に優るものはないと考えるからであります。

校庭の八重桜は、今満開となっております。樹木こそまだ大きくはなっていませんが、やがて大樹となって一層みごとな花をたくさんつけて目を楽しませてくれるでしょう。

県下の高校は、平成6年度からの新教育課程編成の問題、9月からの第2土曜日を休業日とする一部5日制実施の問題等山積する問題をかかえており、当校でも例外ではございません。あまつさえ多様な進路希望をもつ生徒諸君が自己実現を図るべく、きめ細かな指導を行う必要のある昨今であります。

私も、生徒諸君が大樹に育つよう、ひいては松高が更に輝やかなしい伝統を積み重ねるよう指導体制を整えて参りたいと考えております。なにとぞ種々ご教示を賜りますようお願い申し上げ、同窓各位の益々の御発展、御健勝を祈念申し上げましてご挨拶といたします。

昭和11年生、村松町出身、新潟大学人文学部卒、吉川高校、村松高校、新津高校勤務を経て県教育庁高校教育課指導主事、後、安塚、村上、新潟の各高校歴任。

すばらしい村松、 なつかしい村松

ときまさに春、地上に生を受けた動・植物は、みな静から動へと身を転じております。木々は芽吹き、鳥はさえずりそして人々は新たな期待に胸をふくらませて4月を迎えました。四季折々のすばらしい自然を感じさせてくれた町、そこで知った人の心の温かさと豊かさに別れを告げ、私は、この4月から新潟県庁15階で県教育委員会の仕事をしております。村松に思いをはせ、うしろの窓から外を見ますと、うすく雪化粧を残している菅名岳や白山の姿が眼に映ります。

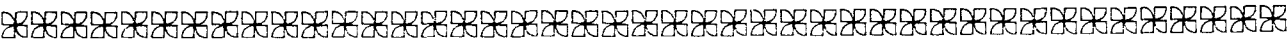
思えば、県立村松高校へは幼いころ住んでいた懐かしさと校長としての使命感からくる厳しさとが交錯した複雑

な気持ちで赴任いたしました。そして、その年に記念すべき松高創立80周年記念式典を挙行することができました。このことは、私にとりましても、人生におけるいわば一つの大きなドラマでありました。何百人もの登場人物は、その一人一人が個性的で鋭い感覚の持主であり、時代の先を読みとる眼と燃えるような情熱を心に秘めている人たちでした。それらの人々と共に松高の未来を拓く仕事が少ないでもできましたことは、校長としてこれ以上の幸せはありませんでした。

私は赴任した当時、羽下大化氏の作品である「秋草かおる」と題する美しい女性の像と二人だけの校長室で、



前校長 佐 藤 義 雄



生徒一人一人を大切に教育、個性を重視した教育をどのように実践すべきかをよく考えたものです。心いきいき、態度ははつらつ、生徒も教師もこのような意気込みで、松高の流れを新たな方向に転換すべく取り組みました。創立80周年記念事業を終えてしばらくすると、「松高の流れが変わりましたね。」という言葉に耳にするようになりました。私はこの言葉を待っていたのです。

平成4年、いま明治以来の学校制度が大きく変わろうとしております。そのねらいは、これからの時代に生きる生徒の望ましい人間形成を図るということであり、生徒が自ら考え主体的に判断し行動するための資質や能力を身に付けさせることにあります。そのためには、現在のような学校中心の教育を改め、学校、家庭、地域社会のそれぞれの場における生活体験を重視する教育へと転換することが必要であるというものです。ですから、これからは松高の生徒に対しても、このような視点に立つ

た教育が求められております。その意味で、「松高は変わりましたね」という言葉を待っていたのです。

幸いなことに、私の後任として赴任された徳橋校長も村松町にゆかりのある人であり、卓越した企画力と実践力の持主でありますから、私は安心して村松を去ることができました。これからは、徳橋校長の新しいビジョンのもとに、松高にかかわりのあるすべての人たちが力を合わせて松高を育ててくださると信じております。

東京支部の皆さまをはじめ、同窓の方々との出会いを通して、わずか一年ではありましたが、貴重な経験をさせていただき、私自身多くのことを学ぶことができました。心から感謝申し上げます。

すばらしい村松、なつかしい村松のご発展を祈念いたしまして、お別れのご挨拶いたします。

(新発田市御幸町3-8-24)

平成3年度 東京支部の動き

平成3年4月1日より全4年3月31日までの東京支部の活動状況を報告いたします。

- 〔平成3年〕
- 4.12 14.00 会報編集会議 ツルマキ 4名
 - 4.19 16.00 幹事会、高輪クラブ 19名
 - 4.26 会報11号編集完了、印刷所へ送付
 - 5. 1 広報部会、ツルマキ 4名
 - 5.11 広報、企画合同部会 支部大会打合せ ツルマキ
 - 5.22 会報校正後印刷所へ
 - 5.25 14.00 幹事会 池之端文化センター 支部大会打合せ 13名
 - 5.30 14.00 支部大会準備 事務局 5名
会報印刷完了納入(11号)
 - 6. 1 14.00 東京支部大会 池之端文化センター
出席 120名
 - 6. 5 総務、経理合同部会 中村宅 4名
支部大会決算について
 - 6.14 14.00 幹事会 高輪クラブ 会報袋詰、15日発送
 - 6.22 15.00 幹事会 支部大会反省及び慰労会 12名
 - 8. 3 17.00 幹事会 浅草長屋 15人、笠原、佐藤両氏に
幹事委嘱。

- 8.17 16.00 同窓会本部総会、懇親会、“明月”
支部より7名出席
- 10. 5 17.00 会報12号第1回編集会議 ツルマキ 6名
- 10.26 9.00 母校創立80周年記念表敬訪問団一行18名、上野公園前出発、同夜津川“ホテル福泉”にて懇親会
- 10.27 母校表敬訪問、記念式及び祝賀会に出席、同日夕刻帰京。
- 11. 2 14.00 第2回会報編集会議 ツルマキ 5名
- 11. 9 赤山会、私学会館 27名
- 11.12 会報12号編集完了 印刷所へ送付。
- 12.20 全上印刷完了
- 12.21 幹事会、高輪クラブ、会報発送作業、終了後忘年会 21名

〔平成4年〕

- 3.28 企画部計画、佐伯支部長快気祝、併せて新年懇親会
浅草長屋 18名

以上

平成3年度収支決算書

自平成3年4月1日～至平成4年3月31日 松高同窓会東京支部

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
支部会費	687,000	大会経費	1,033,733
大会会費	976,000	会議費	159,282
大会祝儀	40,000	払込手数料	12,340
大会特別寄付金	60,000	通信費	160,966
寄付金	148,000	印刷費	445,784
雑収入	91,543	事務用品費	24,413
前期繰越金	211,141	雑収入	145,629
		次期繰越金	231,537
合計	2,213,684	合計	2,213,684
次期繰越金		郵便貯金	135,794
		普通預金	22,202
		手元現金	73,541
		計	231,537

上記のとおり報告致します。

平成4年4月15日

事務局 中村 倉吉 印
経理 岡本 和子 印

監査報告書

上記の収支決算書は監査の結果適正であると認めます。

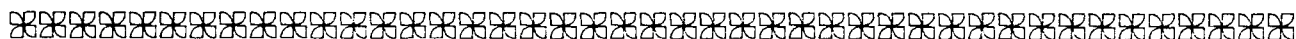
監事 芳賀 健一 印

平成2年・3年度収支決算比較

松高同窓会東京支部

収入の部			
項目	2年度	3年度	比較増減金額
支部大会費	705,000	687,000	△18,000
大会会費	726,000	976,000	250,000
大会祝儀	30,000	40,000	10,000
大会特別寄付金	—	60,000	60,000
寄付金	191,000	148,000	△43,000
広告料	75,000	—	△75,000
雑収入	29,002	91,543	62,541
前期繰越金	126,193	211,141	84,948
合計	1,882,195	2,213,684	331,483

支出の部			
項目	2年度	3年度	比較増減金額
大会経費	903,884	1,033,733	129,849
会議費	96,509	159,282	62,773
払込手数料	12,690	12,340	△350
通信費	141,704	160,966	19,262
印刷費	307,558	445,784	38,226
事務用品費	33,398	24,413	△8,985
母校門扉改修費	82,837	—	△82,837
雑収入	92,474	145,629	53,155
次期繰越金	211,141	231,537	20,396
合計	1,882,195	2,213,684	331,489



ありがとうございました。

◎ 会報12号掲載以後の平成3年度の会費納入者は次の方々であります。（其の二）

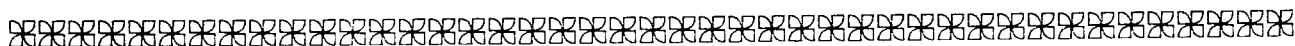
齋 藤 勝三郎 羽 下 信 弘

◎ 母校創立80周年記念誌に掲載された母校の沿革について、改めてご紹介いたします。

尚、併せて過去30年間の10年毎の社会の動きも掲載いたしました。当時の世情を思い起し、当時の吾等の動きと見比べてみるのも興味深いことと思います。（広報部）

学 校 沿 革

明治	44.	3. 21	設立許可新潟県立村松中学校と称す
		4.	本校徽章制定
		4. 25	第1回入学式举行 入学者72名（2学級）（この日を創立記念日と制定）
大正	5.	3. 15	第1回卒業式举行
		6. 3. 11	校旗樹立式举行
		10. 4. 8	失火により本館・特別教室・校具の大部分を焼失
		11. 6. 2	創立10周年記念式並びに復旧落成式举行
昭和	6.	10. 25	創立20周年記念式举行
		16. 11. 5	創立30周年記念式举行
		22. 4. 1	学制改革により新制中学校を併設
		23. 4. 1	学制改革により新潟県立村松高等学校と改称
		6. 1	定時制課程を併置 1学級募集（昼間部）
		24. 3. 31	町立村松女子高等学校を合併
		4. 1	定時制 2学級募集（夜間部併置）
		25. 4. 11	全日制普通科の外に被服科 1学級を併置
		26. 9. 30	創立40周年記念式举行
		30. 4. 1	定時制課程 1学級募集となる（夜間部）
		37. 4. 25	創立50周年並びに体育館落成記念式举行
		43. 10. 21	部室新築・屋外照明施設完成
		11. 22	洋裁実習室増築
		45. 3. 31	体育館増築（附属室）
		46. 3. 31	被服整理実習室新築
		9. 23	創立60周年記念式举行
		47. 12. 15	柔剣道場新築落成
		49. 3. 30	特別教室棟改築落成
		50. 3. 1	普通教室棟（18教室）校長公舎改築落成
		51. 1. 6	小体育館新築落成
		52. 3. 31	家庭科棟改築，電気室新築落成
		53. 3. 31	管理棟改築，受水槽室新築落成
		54. 4. 1	定時制課程募集停止
		54. 11. 12	音楽室改築落成
		56. 10. 27	創立70周年記念式举行 記念事業の中庭完成
		57. 2. 21	定時制閉課程記念式举行
		57. 3. 31	定時制閉課程
		12. 23	多目的教室，地学教室新築落成
		62. 3. 31	野球場拡張整備完成
		63. 9. 30	グラウンド整備完成
平成	2.	9. 30	体育館改修完成
		3. 10. 10	雨天練習場完成
		3. 10. 27	創立80周年記念式举行



10年前の社会の動き（昭和57年）

昭和57年	総理大臣，鈴木善行
1月26日	ロッキード事件全日空ルート判決公判・若狭会長ら有罪判決。
2月9日	日航旅客機・羽田空港着陸前に海中墜落乗客24名死亡。
6月8日	ロッキード事件で元運輸大臣・橋本登美三郎と元運輸政務次官・佐藤孝行に 有罪判決。
6月23日	東北新幹線・大宮～盛岡間開業
9月21日	横綱北の湖，通算873勝史上1位となる。
10月9日	北炭夕張炭鉱閉山
10月18日	三越と取引きの竹久みち，脱税容疑で逮捕。
10月29日	三越前社長岡田茂，特別背任容疑で逮捕。
11月15日	上越新幹線・大宮～新潟間開業
11月27日	第1次中曽根内閣成立

20年前の社会の動き（昭和47年）

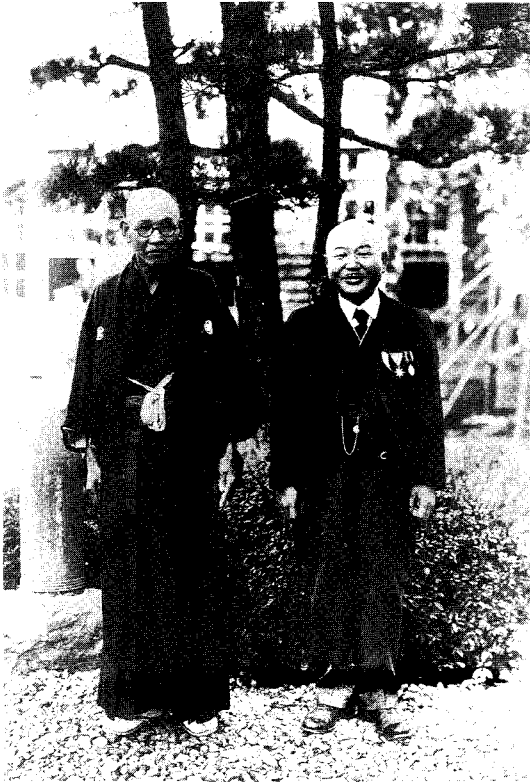
昭和47年	総理大臣，佐藤栄作
1月24日	グァム島密林から元日本兵，横井庄一氏発見2月2日，28年ぶり帰国
2月1日	郵便料金値上げ（ハガキ10円，封書20円）
2月3日	第11回冬期オリンピック札幌で開催 70m級ジャンプで笠谷幸生，日本初の金メダル。
2月17日	妙義山で連合赤軍最高幹部逮捕（連合赤軍の13死体発見）
3月15日	山陽新幹線・大阪～岡山間開業
4月1日	公定消費者米価廃止
5月13日	大阪・千日前デパートビル火災。アルサロのホステス・客合わせて119名死亡。
5月15日	沖縄返還・沖縄県発足
5月30日	テルアビブ空港でパレスチナ人民解放戦線の日本人が自動小銃乱射26名死亡。
6月11日	田中通産大臣，日本列島改造論発表
6月14日	日航旅客機，ニューデリーで墜落86名死亡。
8月26日	第20回オリンピック，ミュンヘンで開催（8/26～9/11）・日本の金メダル 獲得は100m平泳，女子100mバタフライ，男子体操，男子バレー。
9月5日	オリンピック選手村にパレスチナゲリラが侵入，イスラエル選手2人殺害， 9人人質となる。空港で銃撃戦となり人質9人とゲリラ3人死亡。
9月29日	日中共同声明に調印・国交正常化なる。
10月2日	羽越線・新津～秋田間電化。
11月5日	中国政府寄贈のパンダ，上野動物園で初公開。
11月29日	日航旅客機，モスクワ空港で離陸失敗し墜落・死者61名。

30年前の社会の動き（昭和37年）

昭和37年	総理大臣，池田勇人
6月10日	北陸本線・北陸トンネル開通（13.870m）敦賀～福井間電化。
7月3日	第15回世界体操選手権で男子団手で，初優勝（ブラハ）
8月12日	堀江謙一が日本人ではじめて小型ヨットで太平洋横断に成功サンフランシスコ着。
9月26日	若戸大橋開通（2068m）
11月9日	日中総合貿易・覚書調印

思い出のアルバムから

創立 20 周年記念式典の折に来校
された初代校長林榮太郎先生（左）
（昭和 6 年 10 月）



この写真の裏に「向左林榮太郎先生，向右書記神戸安生先正」と書いてあった。

林先生は，祝辞の中で「……予輩の赴任せしは明治44年4月10日にして，初任の書記神戸安生君と俱に本校に來り開校の準備に着手せしが，當日本縣學務課より藤田利孝氏，會計課より山本習助氏が案内され，校舎の引渡しを了したり。其の當時の状況を追憶すれば，校庭は茫々たる雑草に埋れ，校舎の残影は悄然として風に曝され，蕭條寂寞たる光景は何となく物凄さを感じしめられしが，神戸書記と予輩とは数日間人夫を督勵して校地校舎の大清潔法を施行し，更に教室の設備より器具機械の準備を急ぎ開校の用意に殆ど寢食を忘るゝ多忙の日が十日と續きたり。……」と述べられている。

ついでに，前12号支部会報に掲載された林先生の寄稿論文中「第一期第二期の卒業生より云々」の博士は岡村三郎氏，式場隆三郎氏（中 1 回），田中新龍氏，豊島順吉氏（中 2 回）で，すべて医学博士である。また海軍大尉は山賀守治氏（海兵46期），陸軍大尉は村川啓氏（陸士31期・陸大卒）で両氏とも中 1 回，東大は小玉博司氏，

二宮正義氏，堀隆三氏，渡辺浩哉氏（中 1 回），権平昌司氏，高岡忠弘氏（中 2 回）である。

（注． 昭和 6 年同窓会員名簿から）

創立 20 周年記念誌に寄稿された
村川啓大尉（中 1 回）の肖像
（昭和 6 年）



洗練された軍服の着こなし，軍人精神のみなぎる厳しいまなざし，この人物はいったいだれだろうと長い間思案し続けてきた。それが近ごろ元陸軍に在籍した方々の証言により，この人物は昭和 6 年当時の村川啓陸軍輜重兵大尉（中 1 回，大正 5 年卒，陸士（31 期）・陸大卒）であると確信することができた。

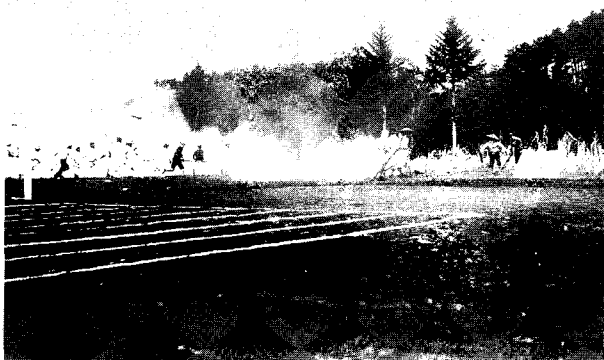
1. 村川氏は十全出身であるが，昭和 7 年 1 月の同窓会員名簿によれば金澤市に在住し，金澤第 9 師団兵器部部員となっている。両襟の「16」の数字は，輜重兵第 16 大隊（明治 39 年大隊編成，昭和 11 年 6 月連隊編成）に所属していることを示す。
2. 記念誌の編集に当たり，村川氏に感想文の投稿を要請したところ，「軍人と呼ばれて 15 年……村川啓」と題する寄稿文とご自身の写真が送られてきた。
3. 記念誌の当該掲載箇所，「村川氏寄稿文」と書いた枝折りがはさまれていた。

（寄稿文の概要）

母校を巣立って 15 年，軍人と呼ばれて各地に転々し，日夜軍隊の練成に微力を尽くしている。今秋の満蒙事件

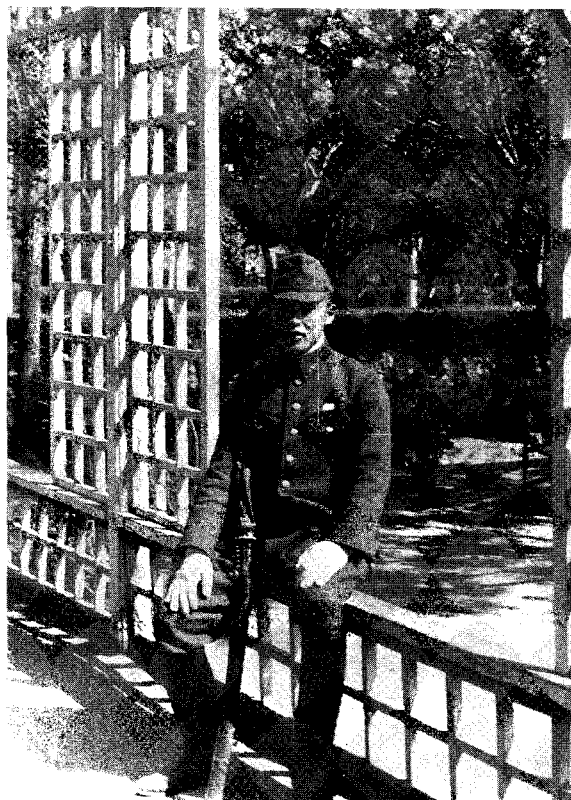
突発以来、国民の在満在支各軍隊に対する熱烈な後援と同情に感激している。国際関係の複雑化、国際貿易の進展の中で、国防を堅固にして国民生活の安寧を保持することが必要である。国防方針の第一義は、国策の遂行、次に国土の防衛とある程度に相当の攻撃力を保有することである。勿論国際平和の維持も国家目的の一つであり、我が国は国際連盟に加入し、不戦条約に調印し、海軍軍縮会議にも臨み、世界平和に貢献してきた、などと述べられている。

昭和11年秋の運動会における 白兵戦（模擬戦）のスナップ



この写真の裏に「昭和11年秋の運動会」と書いてあった。これは運動会における教練の白兵戦（模擬戦）を写したものである。白煙は煙幕の代わりで、突撃の目標地点には「北大營」と書いた横看板が置いてある。菅笠をかぶり歩兵銃を持っている生徒は、中国兵に見立てたものであろうか。「北大營」とは、中国兵の駐屯する個有の兵營の名称であり、横看板は当時の日中の対立を象徴的に表しているといえよう。今の平和な時代に改めてよく見れば、吹き出したくもなり、また空恐ろしいような気持ちにもなる。

斎藤朝之氏（中28）



中村倉吉氏（旧中22卒）

昭和17年、北京の中央公園にて（当時陸軍少尉、終戦時、大尉）

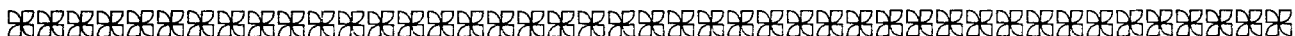
大正生れの間は大正、戦時と着いた垢は変遷する時勢と流れにも落ちず、尚新しい垢が着いてくる。たのしい事もありました。苦しい事も多かった。運、根、鈍とおのれと夢を追い、不治の病を背負いつつ、己が一生は一度だけと、之がホントの馬鹿野郎——呵呵——

（略歴）昭和15年、新発田東部23部隊入隊、昭和15～20年の間、中支、北支と転戦、21年復員、30年（株）寿を創業現在に至る。20才台は頭部戦傷、30、40才台は結核、60才台は中耳炎と手術が続き、60才台は無事息災、70才台は背骨々折手術を行う。

（現東京支部事務局長）

国会見学会を開きます。

日時は未定ですが参加希望者を募集します。希望者は7月末日まで事務局へハガキでお申込み下さい。希望者には追って連絡いたします。



吉田正平氏 (旧中25回卒)
早大より海軍予備学生となり航空隊へ。
(現陸連理事・東京オリンピック・スターター)



故 吉田 松二郎 氏 (旧中23回卒)
早大より海軍予備学生となり航空隊へ。
(元支部幹事 S. 63. 1. 30 病没)



斎藤朝之氏 (中28)

昭和19年4月15日、木更津航空隊から岩国基地へ零戦空輸(20機)の際に、外泊を与えられ、木更津から市川市の自家へ帰ったとき撮った。海軍二等飛行兵曹、数え年19歳。

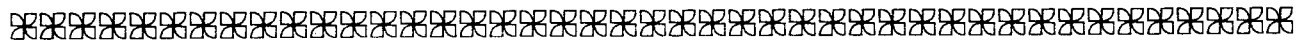


伊藤勇五氏 (旧中33回卒)

私が海軍甲種飛行予科練習生(予科練)として三重航空隊に入隊したのは昭和18年の秋でした。昭和19年の秋に予科練を卒え、下士官になって直ちに飛行術練習生(飛練)として鈴鹿航空隊へ入隊、此处で初めて飛行機に乗った訳です。従って予科練時代は飛行機に乗っていません。この写真は予科練時代、日曜外出した時、町の写真屋さんで七ツ釦の正装の上に写真用の飛行服を着て撮ったもので自分の飛行服ではありません。仲間と皆、こうやって写真を撮って故郷へ送ったものでした。

今苦笑いし乍ら取り出して見えています。

(支部幹事)



新潟県高校同窓会関東支部の大同団結へ!! 東京支部一步踏み出す

以下は佐伯支部長が新潟県各高校同窓会東京支部長宛に発送した挨拶の全文である。
これは4月25日開催した理事会に於て承認され、佐伯支部長の大構想実現のため一步踏み出したものと云える。

東京支部会員各位の絶大なる御協力と御支援を是非お願いしたい処である。

謹啓 始めて御意を得ますが時下益々清適の事とお慶び申し上げます。

早速ですが、私どもの母校、村松高校も昨秋創立80周年を迎え、盛大に記念式ならびに祝賀会を開催することができました。

東京を中心とする関東一円在住の同窓生を以って組織する東京支部も正式に発足してから本年で、第35回目を数えるに至りました。

皆様のお陰とありがたく感謝している処であります、これを機にかねてから私共の念願でありました、県下の東京および関東地区の各高校同窓会支部の、連合会或いは協議会等を作ってみては如何かと存じ、御書面を差し上げることと相成りました。

現在では新潟県下における高校の数は100校を数えるに至っており、県出身者の関東地区各同窓会のご活躍ぶりも新聞や新潟県人会々報を通じてよく承知している処であります。

新潟県下における共通の話題、或いは交歓試合、又は高校こそ違え、中学では同期であった方々もたくさん居られることと存じ、そしてそれらの皆さんが、年に一度は一堂に会し、同窓会等について意見を交わし、且つ歓談する事も又意義があり、愉快的事ではないかと思考しております。出来ればこの実現にむけて是非お力を貸し願えれば誠に幸いと存じております。

若し本趣旨に御賛同願えましたならば、本作業発足のため発起人をお引き受け願いたいものと存じておりますが如何なものでしょうか。

まず下越地区からとの考えで次の各校支部長様に御書面をお送りしてあります。

御回答頂ければ、他日御面談の上詳しく御相談申し上げ、手続をふみたいと存じております。

尚御存知の同窓会支部も御紹介賜り、発起に加わって頂けたら更に力強いものになると存じております。

なかなか文書では言い表わせない面もありますが事情御明察の上、何分共に宜しく御協力お願い申し上げたいと存じます。

時節柄益々の御自愛と御活躍を御祈念申し上げ御あいさつと致します。

敬 具

若草もえる季節となりました
皆様ごきげんよくお過ごしのことと存じます
私達の母校「臥龍ヶ丘」も日まじに緑がまして
来る頃でございましょう
さて本年度の第17回東京支部同窓会を下記により行います 久しぶりでなつかしい顔を合わせ
楽しいひとときを過ごしたいと思ひます
諸兄弟おそろい合せのうえぜひご出席ください
ますようお願い申し上げます

記

- ・日時 49年6月7日 午後6時
- ・場所 銀座松坂屋 地階「オアシス」
- ・会費 男子 3,000円 学生 1,000円
女子 2,000円 (当日持参)

催物

- ・竹久あつ子(キングレコード専属・新潟市出身)
司会・柳家さん吉
- ・抽選会

準備の都合がありますので来たる5月25日までに
出欠のご返事をお願いします

県立村松高等学校同窓会東京支部
支部長 水尾正二

本年度第35回支部大会の根拠となった
第17回(昭和49年)の支部大会案内状

お便りの中から

◎ 早春、日脚も伸びうれしい気配のこの頃です。お変わりありませんか。小生も元気です。(中略) 下記の切抜きは新潟版のものです。栄光の旧制村松も夢物語りですね。ではお体に気をつけられて、さようなら

※「トップは“新潟”の55人

新潟大県内高校別合格者状況

新潟大学がまとめた92年度入試の県内高校別合格者状況によると、分離、分割方式前期日程の合格者数上位10位は新潟の55人をトップに②新潟南37人③三条29人④高田28人⑤長岡18人⑥巻16人⑦新津12人⑧新発田11人⑨新潟明訓10人⑩村上8人の順だった。」 ※ 村松は0人、何とも寂しい限りである。佐伯支部長宛 福原平八郎氏より (26回)

◎ (前略) さて、この間はお土産と東京支部の村松高校創立80周年記念号を有りがたく々々頂戴致しました。

(中略) 本はゆっくりと読ませて貰いました。自分の利益にだけ夢中な人の多い中、母校のためにも相変らず一生懸命で親切で暖かくて、僅かの間でしたが前の会社に居た頃をほうふつと思い出しています。まるで私の母校かと錯覚する程、何の抵抗も無くほのぼのとしたものを残して読み終わりました。

有りがとうございました。(後略)

佐伯様 祖父江静子さんより(部外者)

◎ 拝啓 4月に入り急に暖かになり、梅も桜も皆開いて春爛漫の季節になりました。

先日はおいしい羊かん、ぬれ甘納豆を御郵送下さいまして、ありがとうございました。ちょうど、小、中学校の入学式、五泉の成人式、婚礼が続き、スタジオ、出写の春の一番忙しい時で、くたびれて居りまして甘いものがいただきたいところでした。皆して、本当においしく頂戴いたしました。ごちそう様でございました。とり急ぎ、お礼まで申し上げさせていただきます。ありがとうございます。かしこ

(在村松、コンドウ写真館、近藤三稚さん(高15回卒))

※ 昨秋母校創立80周年記念行事に参加の折、いろいろと多くのスナップ写真を撮って、出席の皆さんに行き渡るようたくさん写真を送って頂いた礼に東京より、お菓子をお送りしたお礼のお便りです。

◎ 拝啓 ますます御壮健で御活躍をおよこび申し上げます。特に毎回、母校同窓会報に玉稿を寄せていただき感謝しております。昨秋の母校創立八十周年記念式典の盛会および記念事業の完成の陰に同窓会東京支部の絶大な支援があったことを佐藤校長先生、茂野実行委員長ともに感謝しておられることと推察しています。記念誌の発刊がおくれましたが、漸く配布の運びとなり、安堵しました。

このたび亀嶋先輩から御労作の「続、日々去来」を頂戴して感銘深く読んでいます。(在村松、松尾吉信氏(旧中25回卒)より佐伯支部長へ。)

◎ 花々の美しい季節になってまいりました。このたび3月31日をもちまして県立村松高校を定年退職いたしました。

在職中は公私共に格段のお力添えをいただき楽しく充実した月日を過ごさせていただきました。心より感謝し厚く御礼申し上げます。晩年は健康を害し多くの皆様に大変御迷惑をおかけしてしまいました。

お寄せいただいた御厚情を胸に、今後は健康に留意して自然を愛し趣味を楽しみながら過ごしたいと思っております。今後ともよろしく御交誼をお願い申し上げます。

同窓会では大変お世話になりました。末筆ながら皆様の御多幸をお祈りして退職の挨拶といたします。

敬 具

大塚 滋 明(高2回卒)村松町片町

— 欠席によせて —

◎ 同窓会東京支部の事は聞いておりましたが、始めて連絡を頂きありがとうございました。今回は都合が悪く欠席しますが、次回は是非出席するよう願っております。

本 山 順 子 さん(高7回卒)

◎ 御連絡を頂きまして誠にありがとうございます。いつも欠席の返事で申し訳なく存じておりますが、何分よろしくお願い申し上げます。恩師も去り友もぼつぼつ他界の知らせを頂くような年頃になりましたが、頑張っております。

新 保 ミ ワ さん(旧女8回卒)

◎ 松高東京支部大会おめでとうございます。お招き頂きましたが、所要のため欠席させて頂きます。御盛況をお祈り申し上げます。

(津川支部長 石 川 巖 氏(旧中33卒))

※ 同様趣旨の御返事がたくさん来ております。

寄稿

咲花の戦跡碑

中野 博(中27)

五泉市の咲花温泉さきはなを利用された方はお気づきのことと思われるが、同駅前ぼしんに戊辰戦争の戦跡碑が建立されている。建てられたのは同戦争から丁度60年目になる次の戊辰の年、昭和3年と記憶している。(間違っていたら失礼。)

咲花ではどのような戦があったのであろうか。会津史談会編集の「会津戦争のすべて」からの引用と村松町史及び大仏次郎著作の「天皇の世紀」等を参考に整理してみた。

戊辰戦争は慶応3年(1867年)10月14日徳川慶喜の大政奉還を受け12月9日に発せられた王政復古の大号令後、新政府によって行われた国内統一戦争であり、戦が咲花地区に及ぶまでの地域的経過は次のとおりである。

薩・長の2藩を主力として信州の上田、松本その他の諸藩、それに北陸の越前、加賀等の藩からなる新政府軍と、長岡藩が慶応4年5月3日片貝で衝突。この地域での戦が始まり、戦は長岡、米沢、会津等の同盟軍と政府軍との間で行なわれた。相互に一進一退を繰り返しながら5月19日長岡城が落城、その後河井継之助の奇襲作戦で同盟軍は7月25日同城を奪還した。

この日政府軍は長州兵を主力に新潟の松ヶ崎浜、太夫浜に上陸した。既に新政府に帰順した新発田藩はこれを迎え入れている。

この結果背後に敵を受けることになり、同盟軍にとり戦況は不利となり長岡城は7月29日再度政府軍の手に落

ち同盟軍は栃尾、見附方面に退却、米沢藩兵は八十里越峠を経て自国に引揚げ、会津藩兵は津川に後退布陣した。

村松藩兵も村松に還ってきた。その後五泉方面から進出してきた政府軍と村松藩は8月3日に戦闘を開始したが、翌4日村松城は落城した。

これに引続いて咲花地区での戦が始まっている。8月上旬政府軍は津川攻略のため大軍を投入、一隊は五泉、村松から阿賀川右岸の赤坂(現安田町)へ集中、8月11日宝珠山を攻撃した。左岸地区では現在の咲花地区を占領し薩摩、松代藩の砲隊を馬下に集めて右岸を砲撃した。

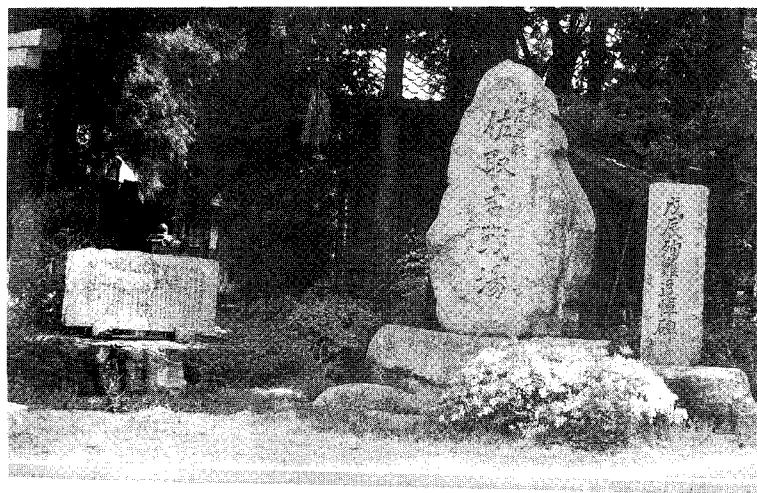
この方面の攻撃とは別に政府軍は新発田方面から8月14日会津藩兵の守っていた赤谷を攻撃、これを敗り新谷、諏訪峠を経て8月16日津川を砲撃した。

咲花方面の政府軍は東進した五十島で、会津藩兵の猛反撃を受け退却している。ここで長州兵が渡河し五十島の西の山頂に砲を上げ砲撃したので、会津藩兵は五十島を放棄し、その東方の谷沢の堅陣に拠った。政府軍は増援を得て8月21日から23日まで、ここを攻撃しているが、失敗して後退している。その後の経過は資料不足ではっきりしないが、翌9月22日若松城が落城したのは周知のとおりである。

なお、9月8日に明治と改元されている。

馬下の永明寺では戊辰戦争時薩摩藩の中村半次郎(後の桐野利秋)が宿泊したとの言い伝えがあると同寺の住職から聞いている。

今を去る124年咲花から津川周辺にかけ、熾烈な戦が行なかれたことを物語っているのは咲花駅前の戦跡碑のみであり、同温泉は今日も賑かなことであろう。



寄稿

還 暦 元 年

渡 辺 八 郎 (高 3)

ある新聞の記事に「還暦を迎える頃から人に嫌われる「3K」— 1. 気難しい。2. くどい。3. 汚らしい（無頓着）」があるそうです。それぞれに対処していくには、
1. 気安い酒場で友達と大いに語り合うこと。2. 寡黙になること。3. 年令等気にせず、お洒落をすることだそうです。

過日、故郷五泉の神社で還暦の集いがあり、出席して来ました。直会になりお酒も出、男女共々盛り上っても良い筈なのに、両方の交流が全くないのです。「男女七才にして席を同じうせず」こんな制度が今、六十才になっても生きていたのでしょうか。今でも大和おのこであり、大和なでしこだったのでしょうか。（勿論「貢君」とか「アッシー君」等は、とんでもありません）。そんな遺物を引きつって大人になりました。

承知の上で、「気難しさ」が頑固にもなります。「くどさ」が煩しさにもなりましょう。せめて「汚らしさ」丈でも還暦で最後のお洒落元年にしたいものです。

今年、友達からの賀状「健康が第一。それ丈で愉快である」。とありました。然り、赤いチャンチャンコに祈りをこめて—

七月、湯沢温泉で還暦元年の同期会を催します。健康とお洒落を携えて3Kの全てを遠慮なく発露したいものです。

そしてみんなで「我々の世代は良かったなァ」と。

〔 ちょっといい話 〕

3月28日、支部長退院を祝って有志が浅草“長屋”へ集まる事になりました。そこ“長屋”の支配人は、ずっと昔、支部長の教え子だったそうで、この“へぎそば”がうまい、と支部長のお気に入りの店の一つです。案内状に地図は入っていたのですが、中々見つからず半ば不安になりながら歩いていると、向うから久しぶりの塚田氏、彼も店が見つからなかったと云うので、改めて地図を見直し、ア、もう一本向うの道なのヨ、入口に寒梅の大きな瓶がある所ネ、と見当をつけて歩き出し、この辺りかな？ と見廻わすと、あまり目立たなく寒梅の瓶がありました。

支部長全快は嬉しい事で、塚田氏の久しぶりの笑顔も嬉しく、又、中に入ると己に先輩の関氏もみえ、その上

大先輩の佐久間精一氏の姿もありました。

今日は良い会になりそうです。

ちょっと遅れて後輩の石黒氏が来ました。彼はアイスクリーム屋の経営者で、なかなかの羽振りなのですが、この会に来ると先輩達に囲まれた中でホッとするのか、結構すぐ酔ってしまうのです。でも、どこか憎めなく最後には必らず誰かが面倒を見るはめになります。

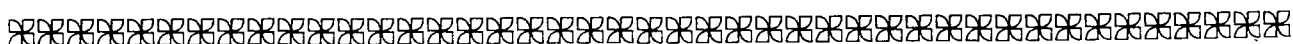
部屋の入口附近には、打ち合せがある二部部がかたまっている、石黒氏が坐った所は先輩関氏の前でした。これが、その日一つの山場になるとは……。

支部長の近状報告、次の大会へ向けての話等の後、料理が出て、先ずビールで乾杯。そして酒好きの新潟人の集まりですから、当然それだけでは治まらず、支部長の故郷“津川”の美酒“きりん山”を注文し、それも又、冷酒党、燗酒党とウルサイのです。

今日は先輩の岡本さん、佐藤さん、後輩の真水さん、寺山さんと女性の顔も揃い、和やかに歓談は続いています。突然、怒声一発。一瞬、気の流れが止まりました。体育会系の先輩、関氏が、石黒氏への爆発でした。石黒氏はもう大分酔っているようで、何か不用意な言葉を発したらしい……。どうしよう？ と思っていると、側に坐っていた鈴木氏が、こっちを向いて、“大丈夫”と云います。やかて石黒氏はふらりと立ち上り小用に、……。暫らくして戻って来たので入口附近の皆は“ここに坐れよ”と関氏から離そうとするのですが、彼はこっちの気持とは逆によりよるとあろう事か関氏の隣にベタリと坐ってしまったのです。鈴木氏はこっちの心配を察して、“大丈夫、任かせておいて、こうゆうコトはオレうまいから”と云います。

気が付くと、関氏は悠然と坐り、そばの石黒氏を抱えるような格好で“しょうがない奴だな”と云うように笑っているのです。それからの二人は、まるでオヤジ（失礼）立派な兄貴と腑甲斐ない弟さながら、場所を変える途中も、次の店の中でも兄貴は酔ってしまった可愛い弟を抱えるように連れているのです。弟は久しぶりに逢った強い兄貴の保護の許で安心しきったように離れないのです。一時はどうなる事かと思った事も、一転して皆を和やかな気分させてくれた一幕でした。今日はやはり、良い日のようです。

その日の解散は以外に早く、9時ちょっと過ぎでした。同じ電車に乗る先輩の芳賀氏と二人、駅の方へ歩いていると、“今何時？”“9時20分。”“なんだまだそんな時間か。帰るには早いよ、もうちょっと飲んで行こうよ”とサッサと車をひろってしまいました。“帰った方が良いのに…… 大分酔っているのに……”。



彼は胃の手術をして、 $\frac{1}{2}$ ぐらい取ってしまったせいか、すぐ酔うのですが、性こりもなく未だ酒を浴びているのです。この飲み方は世代かな？ 自分の若い頃のムチャ飲みを思い出し、一種のなつかしさを覚えます。御徒士町のちょっと素適な古い感じの店には、ボトルが置いてあって、水割りを飲みながら彼は支部長の体をしきりに心配し、しゃべりまくるのですが、胃が $\frac{1}{2}$ しかない芳賀氏の体も心配で、飲んでばかりじゃ体に悪いわよ、と雑炊を注文し、“食べなきゃ駄目よ”とすすめると一口食べて、結構おいしいネ、と平らげてくれたのでほっとしました。

ニ ュ ー ス

◎ 亀嶋謙氏（旧中22回卒）の随筆集“続、日々去来”の出版を祝う会が4月26日（日）午後4時より早大構内大隅会館で出席者200余名が集まり盛大に開催された。

氏は10年前にも第一版“日々去来”を出版されており今回が第2回目である。10年後には“続続日々去来”を出版するようにと来賓の激励もあり、本人も意気こんでおられる。同氏の健筆を祈るや、切である。

東京支部からは次の同窓各氏が馳せ参じ出版を祝福した。川瀬五郎、小田如哉、松田長四郎、中村倉吉、佐久間精一、堀 哲二、吉田正平、佐伯益一、あるいは出席

編 集 後 記

暖かで好天に恵まれたお正月から、3月に入ると一変して雨や雪の日が多くなり、自然界のバランス感覚には改めて感心したりして、世の中の不景気にはウンザリしています。株価の下落続き、多くの企業では事務用品の節約から、管理職の昇給延期、役員の減給まで徹底的に経費の節減を余儀なくされるほど、不景気風が吹き荒れています。私達の飽食と無駄に馴れきっていた体質に、人、物、金に対して警鐘を打たれました。

これからは、大いに反省し節約の精神を忘れる事なく暮らしたいものです。

平成4年の東京支部大会に会報13号が会員の皆様にお渡し出来るように、3月から幾度かの編集会議を開き、関係者の人達には休日を返上して会報作りに協力をしていただきました。

編集会議では、表紙をはじめ内容の検討に相当の時間を費やしていますが、表紙でつまづいてしまいます。

会報作成にあたって、一番の悩みは原稿や写真を集める作業です。皆様のご投稿を是非お願いいたします。

12号掲載を予定していましたが、「先生のアダ名」特集は、残念ながら資料不足のため断念しましたが近いうち

店を出て千代田線に乗り、北千住で“じゃ、気をつけて”と云うと芳賀氏も降りてしまうのです。“？… どうしたの？ 真すぐで良いんじゃない。”“まあいいじゃない、東武線まで行くよ。”“どうして？”“あのサ、よく送って行って、おじょうさんが電車に乗って、ドアが閉って、じゃさよならって手を振ってサ、電車がすうっと行くじゃない、アレを一度やって見たいじゃない、経験させてよ。”と云うわけで、それをやって、今日は終わりました。 おわり

（一女性幹事）

されていてもお顔が合わなかった方も居られるかも知れぬ。その際は失礼。

◎ 赤山会春季例会

4月25日旧制中学の集りである赤山会が、市ヶ谷の“私学会館”で31名が参集して盛大に開催された。席上宮中の新年の歌会初めの選者である千代国一氏（中18回）からその模様のお話を訊くなどして、出席者一同深い感銘をうけた。最後は恒例の大合唱で会を閉じたが、31名も集ったのは異例のことである。

に掲載したいと考えています。

編集会議の後、「お酒の力」を借りながら、雑談を交えながら話をしていると、ふと良いアイデアが浮かんで来ることが多く、お酒の有難さを感じます。

昨年8月頃から浅草のそば屋「長屋」を利用しています。長屋の常務さんが、佐伯支部長の教え子とかで、お酒も「越の寒梅」「雪中梅」をはじめ新潟産で、特にお勧めしたいのは、津川の「麒麟山」。「へぎそば」で腹ごしらえすると、はるか浅草まで足を延ばしても、気持ちが落ち着きます。

編集会議のため、毎回、鶴巻氏（高10回卒）には、本郷の事務所を使わせていただいて、誠に有難く心から感謝し御礼申し上げます。

広 報 部

沢 出 起 允	高6回卒
深 見 洋 子	高7回卒
鶴 巻 浩	高10回卒
大 橋 貞 夫	高10回卒
寺 山 征 子	高10回卒
真 水 道 子	高10回卒

商品管理・保管・及び流通加工

御社の分身としてご活用下さい。

京葉梱包倉庫株式会社

代表取締役社長 山 崎 輝 雄 (高8回卒)

本社 ・ 東京都江戸川区篠崎町 5-14-23

TEL (03) 3670-5221 (代)

FAX (03) 3676-1100

第一事業所 東京都江戸川区篠崎町 2-189 TEL (03) 3678-3601(代)

第二事業所 東京都江戸川区篠崎町 5-14-23 TEL (03) 3698-4711(代)

第三事業所 東京都江戸川区篠崎町 4-24-1 TEL (03) 3678-9211(代)

第四事業所 東京都江戸川区篠崎町 5-13-18 TEL (03) 3678-8791

千葉事業所 千葉県八街市八街字旭い190番地 TEL (043) 444-841

阿賀野川ラインの景勝地

きりん山温泉 ホテル 福 泉

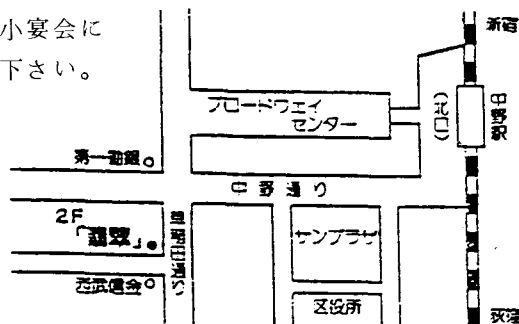
磐越西線 津川駅又は鹿瀬駅下車 バス10分 (東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬)

電話 02549-2-3131

いつもご利用いただきまして有難うございます。本年も又、どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐 伯 光 俊

お打合せ、小宴会に
是非ご利用下さい。



料理と酒

かわ
翡

せみ
翠

中野区新井 2-3-2

TEL 03-3386-5823

平成4年6月 第 13 号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

広 報 部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24

TEL 03-3445-6501 (株) 寿内

郵便振替 東京 2-136445